



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 4

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 4. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 4

ISSUE DATE:

1953-01-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186881>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会 水族館月報

No. 4

(謹賀新年)

1952, 12月(1月6日)

例年とも、この月は客足の少ない月の由だが、今年は炭労ストの影響を受けて列車が削減され、それに加えての電賃ストで、白浜全体が不景気のどん底に喘いで了った。この事は水族館の経営にも重大な影響を及ぼし、12月自体としても赤字を出しに至り、1月の未掛金にベースアップ追徴金の支拂が加って、月末には、64,476.00円の借入金をしてやっと1952年を送った次第である。

さて、先月から手をつけていた鯨骨の組立は、12月6日午後に完了、写真に示す偉容を陳列室に横たえている。



← 人物は組立を行った  
羽原俊隆氏(左)と  
それを助けた浦井ニ  
氏(右)  
(16日午後、山路撮影、  
十月購入のカメラを使用)

この完成は、大毎の和歌山版や地方新聞、NHKの大阪地オローカル放送で一般に紹介され、入場者を喜ばせている。

補助機関のエンジンは好調で、停電時の使用は言うまでもなく、毎週水曜日には必ず運転して、状態の点検を厳重にしている。従来より設

備を進め、エンジンの廻転を一度天井に移し、そこから2台のポンプのいずれにでも連絡できるように設計されている。なおこのエンジンは11月末より運転されている。

山路委員に委嘱していた自働開閉付水槽ヒーターが先月末出来て来たが、その調整がすんで3日からNo. 28の水槽に取り付けられた。この中にはタイマイ2匹と生残った本年産アカウミガメの仔2匹を入れ、水温は20℃に保っている。100ボルト電灯線から引いてあるが、使用電力量を調査の上、場合によっては明年度に起亜炭酸水槽を設置したいと考えている。

山路委員の奔走により、水族館周辺の左官工事をして貰っていたが、これもほぼ終了。他にもお多くの要修理の場所があるがこれで一応しのげるようになった。主なもので、排水管用のり又は破損の修理、ベランダ屋根耐雨工事、剥脱壁塗替、水槽前に植壇設置、玄関前に排水溝設置、海水取入管露出箇所埋没作業等があり、これを見ても、いかに今並いどの状態におかれていたかが判るであらう。この工事は総額ほぼ12万円に達するが、この支拂いが庁費で許されたため、水族館で購入のエンジンを庁費で支払い、水族館がこの工事費を受持つようにした。

29日夜、実験所職員組合と合同して、寄宿舍食堂で忘年会を催した。

歳を送るに当り、水族館の運営に協力して下さった実験所内外の方々に心より御礼を申し上げますと共にまた来るべき年での変わりなき御援助を御願い申し上げます。

⑨ 12月入場者数

水族館発売切符数

大人 1851  
小人 58  
団体 910 } 計 2819

明光バス発売切符数

大人 2412  
小人 12 } 計 2424

5243

無料入場者(近畿ブロック青年団,教育委員会依頼他) --- 111

⑩ 観覧券売上金 ----- 100,138.00

雑 収 入 ----- 40.00

積立金引当 ----- 49,750.00

借 入 金 ----- 164,686.00

計 314,614.00

⑪ 支 出

11月より繰越 --- 13,728.50

11月分入場税 --- 11,296.00 - 1,882.00(香洲山) = 9,414.00

災害時予備積立金 ----- 4,314.50

差 引 0

人件費(給料,年末賞与,ベースアップ追給金) ----- 82,333.00

光熱費(電力料) ----- 3,395.00

消耗品(切符印刷代他) ----- 1,490.00

修理費(海水タンク,ポンプ工事,鯨骨組立代)  
(水族館修理) ----- 171,464.00

材料費(奥類及び餌代) ----- 9,295.00

旅 費(岡田-白浜,東京-白浜) ----- 10,120.00

積立金(退職資金,ベースアップ資金  
賞与資金,厚生資金) ----- 10,900.00

雑 費(茶) ----- 130.00

契約金(番所山熱帯植物園) ----- 16,481.00  
厚生費(新内、忘年会費用分担金) ----- 3,050.00

計 308,658.00

28年1月に繰越 5,956.00

番所山に対する契約金は

$(100,138.00 - 1,250.00) \times \frac{1}{6}$  として算出されました。

借入金164,686.00は山路委員と協力して利息を払わなくて済む所から借入した。御安心願います。他に11月末払いの顕微鏡写真撮影装置代金の一部19,000.00がそのまゝとなっています。

#### ④ 入場税

この奥については、その後何等の進展もなく年を終りました。12月27日通達により県税務課員の改正入場税の説明を聞きに参りました。1月1日から第2種の入場税は半額の20%となりますが、入場券は絵等の方法徴集が徹底されるので、<sup>これ</sup>県側の言によれば、税収入は増しても減る事はないそうです。配布された“入場税の1切り”に麗々しく掲げてある入場税免除の項目を頼りに申請しましたが、忽ち却下されました。しかし支出の大きい部分を占める絵料はベースアップされるのに、事業の性格上出来ぬ現状で入場料の値上げの<sup>入場料の値上げの</sup>改正が空念佛ではどうにもなりませんので、1月には峰尾、岩城委員とも協議して策を構います。

◎ 12月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(24)	6	9	9
気温	$\frac{10.3-12.5}{12.5}$	$\frac{11.1-16.5}{12.9}$	$\frac{8.5-12.5}{10.4}$
水温	$\frac{16.4-21.2}{18.1}$	$\frac{16.3-18.6}{17.1}$	$\frac{14.6-16.8}{15.4}$

但し 気温は南水槽室  
水温はNo.22水槽で10時に測定

◎ 12月の魚

水温の低下と共に人気者のコバンサメ、イカも次第に死んで来て、餌も補充がつかぬので、残りを大切にしているが心中気が気でない。ツナグシは水温が20℃以下に降ると同時にタイマイが入入っている温水槽に移したが一夜夕方邊に旋回しての後始末が不十分であった為か、汚水中に全部死滅してしまつた。現在、31日に購入したものが1匹温水槽隣りに生きている。

20日、浦神で獲れた520匹のニシキエビが持ち込まれた。美しく大きな姿をNo.34水槽に見せて、入場者の讚歎を集めている。1日購入のエビスグイス匹も大きな緋色の姿で人目をひいている。なお次の記録も注目されてよからう。

○ ヒトエガイ 14日採集 —— 20日死亡  
(雑笑氏採集)

○ ガンガゼモドキ 3日採集 —— 6日死亡  
(左海君夜磯で採集)

○ No.26—No.28の水槽に17日以後アカフリゲのエファイラが発生しており、1月6日現在なお続いている。底の礫上のストロビラからエファイラが

体をもぎ離してゆく様がよく見えて面白い。

⑨ 臭 病

1日所用にまがれて塗薬を食ったところ、2日には体表がすっかり荒れ、ウスバカツハギはその日に、ウミスズメ及びツバメウオは3日に死んでしまった。単に1日休んだのがこれだけの悪結果を招いたのか？ 病臭を入れておいた水槽が1日休んだ間に臭の体表をすっかり荒れさせる程の何等かの悪条件を具えていたのか？ 或は結果良好と思っていたのは誤りで、日々体表の白い汚皮は筆で機械的に除くけれども、病臭自体は進行していたのか？ 或は筆や網の機械的刺激が重って致命的となったのか？

これらの臭については他日、病臭を得た場合に、確かめてみたい。

白川隆